

歩育とマナー

健康生活学科 健康マネジメント専攻 准教授 植松 大介

保育現場で日課となっている「お散歩」は子どもたちへの「人格形成」に最も適した機会だと考えています。

私は車通勤をしていますが、途中でよく保育園児の「お散歩」に遭遇します。特に子どもたちと横断歩道を渡る際、保育士さん達が本当に申し訳なさそうに足早に渡り「早く渡りましょう。」という声を耳にします。その際に保育士さんは、安全確認・確保や、ドライバーへのお礼も忘れません。運転手に迷惑をかけないようにという心遣いが第一優先なのかと思いますが、ここが子どもたちの人格形成の大きなチャンスだと思います。「手をつないで手を上げて渡る。」を「手をつないで運転手さんにバイバイしよう！」に変えたらどうなるでしょうか？また併せて「ありがとう！！と言ってみよう！」も加えてみたら？ドライバー全員がとは言えませんが、少なくとも悪い気はしないと思います。「好き」と「ありがとう」を言われて嫌な気持ちになる人はそんなに多くはいないでしょう。ましてや子どもたちがみんなで言ってくれたらドライバーの方もきっと手を振って返してくれると思います。

子どもは大人の反応をみて学習します。「これは良いことだ、これはやっちゃいけない。」だと。私はよく幼稚園等の送迎バスと信号待ちで並んだ時、園児に向かって手を振ります。園児も面白がって手を振り返してくれます。窓越しで「こんにちは」とロパクします。子どもたちも同じように返してきます。最初は1人だったのが、気付いたら5人、6人と増えています。これは子どもたちが「面白い」と感じ、同じ行動を真似るのです。この「面白い」という感覚と真似るといふ行動からその行動・言葉の意味を学ぶ、これが最も大事です。

「相手を思いやり、尊重する心を自然でスマートに実践する。」これがマナーの基本です。「道を通してくれてありがとう！」という相手を思いやる気持ちを育むことで、心豊かな人格形成ができてくるのではないのでしょうか。例え横断歩道を通らないルートだったとしても、商店街や住宅街で人に会ったら「こんにちは！」と声をかけて手を振る。「お先にどうぞ。」と言われたら「ありがとう！」って言って手を振る。相手の笑顔を見て笑顔になる。この繰り返して学ばせることで大人になったときに自然とスマートに立ち振る舞えるようになります。

歩いていると沢山の気付きに出会います。子どもたちは「人」「植物」「動物」「昆虫」「あぶないこと」「あぶないもの」など様々な出会いを通して学んでいきます。特に人は感情を持ちその感情が表情として現れる唯一の動物です。相手の感情を察知して行動する能力はここで養われ、人格として形成されます。この能力がしっかり身につく、相手に自然とスマートに実践できるようになる最終形態を「ホスピタリティ」と呼びます。そして「ありがとう」という言葉を多く使ってもらうために様々な創意工夫をし、喜びを共有する行動や感覚を「おもてなし」と呼びます。幼児期という限定期間だからこそ学べるこの機会を大いにいかしてほしいと思います。この「歩育」を通してのマナー教育を是非実践してみてください。

